

(19)日本国特許庁(JP)

(12)登録実用新案公報(U)

(11)登録番号
実用新案登録第3247617号
(U3247617)

(45)発行日 令和6年7月23日(2024.7.23)

(24)登録日 令和6年7月12日(2024.7.12)

(51)国際特許分類		F I	
A 0 1 M	29/34 (2011.01)	A 0 1 M	29/34
A 0 1 G	13/10 (2006.01)	A 0 1 G	13/10 Z
A 0 1 G	9/12 (2006.01)	A 0 1 G	9/12 A

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 O L (全6頁)

(21)出願番号	実願2024-1694(U2024-1694)	(73)実用新案権者	513240995
(22)出願日	令和6年5月25日(2024.5.25)		藤原 佳子
			茨城県日立市十王町伊師本郷3 9 2 4 - 8
		(74)代理人	100154357
			弁理士 山▲崎▼ 晃弘
		(72)考案者	藤原 佳子
			茨城県日立市十王町伊師本郷3 9 2 4 - 8

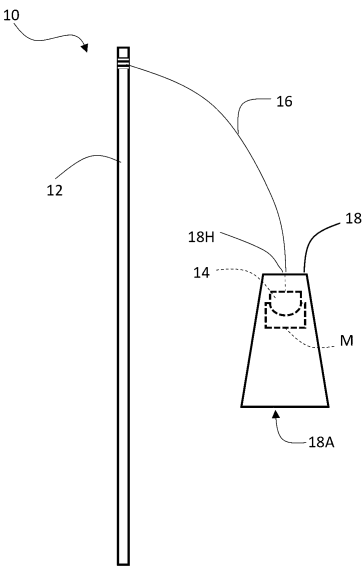
(54)【考案の名称】 防虫器具

(57)【要約】

【課題】植木鉢又はプランター内への昆虫の飛来の防止又は抑制に向けられた防虫器具を提供する。

【解決手段】本考案に係る一態様の防虫器具10は、支持部材12と、前記支持部材12に防虫剤Mを保持する保持具14とを備える。例えば、支持部材12は棒状部材であり、植物の土壌への立設用である。そして、支持部材12から保持具14に延びる延出部16は、可撓性を有し、かつ、塑性変形可能であるとよい。

【選択図】図1



10

【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

支持部材と、
前記支持部材に防虫剤を保持する保持具と
を備えた、防虫器具。

【請求項 2】

前記支持部材は棒状部材であり、植物の土壌への立設用であり、
前記支持部材から前記保持具に延びる延出部は、可撓性を有し、かつ、塑性変形可能である、
請求項 1 に記載の防虫器具。

10

【請求項 3】

前記保持具周りを覆う傘部材を更に備えている、
請求項 1 又は 2 に記載の防虫器具。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、植木鉢又はプランターなどでの植物栽培において用いることができる防虫器具に関する。

【背景技術】**【0002】**

青虫などの幼虫及び昆虫などが、植木鉢又はプランター内に入り込み、植木鉢又はプランター内の植物に悪影響を及ぼすことが知られている。例えば、特許文献 1 は、植木鉢より害虫の発生あるいは害虫の出入りを防ぐことができると共に、防虫カバーを通して植物の成長に必要な水を植木鉢内に入れることができる植木鉢用防虫カバーを開示する。この防虫カバーは、土壌を有する植物が収容された植木鉢のカバーであって、少なくとも一部に親水性繊維を含有してなる不織布又は親水処理が施された不織布からなる不織布カバー体で構成され、かつ、該不織布カバー体により植物以外の露出面となる植木鉢の外側全体及び植木鉢の上側の土壌面部を被包することを特徴とするものである。

20

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】特開 2000-270683 号公報

【考案の概要】**【考案が解決しようとする課題】****【0004】**

植木鉢又はプランター内の植物には、土壌からだけではなく、空中から直接的に昆虫が飛来することがある。このような昆虫の飛来を防ぐ又は抑制することに向けられた防虫器具が望まれている。

【0005】

本考案は、植木鉢又はプランター内への昆虫の飛来の防止又は抑制に向けられた防虫器具を提供することを目的とする。

40

【課題を解決するための手段】**【0006】**

本考案に係る一態様は、
支持部材と、
前記支持部材に防虫剤を保持する保持具と
を備えた、防虫器具
を提供する。

【0007】

好ましくは、前記支持部材は棒状部材であり、植物の土壌への立設用である。そして、

50

前記支持部材から前記保持具に延びる延出部は、可撓性を有し、かつ、塑性変形可能であるとよい。

【0008】

好ましくは、前述の防虫器具は、前記保持具周りを覆う傘部材を更に備えている。

【考案の効果】

【0009】

上記一態様の防虫器具によれば、支持部材を介して防虫剤を保持することができるので、例えば植木鉢又はプランターに用いたとき、その植木鉢又はプランター内への昆虫の飛来防止又は抑制に効力を発揮することができる。

【図面の簡単な説明】

10

【0010】

【図1】一実施形態に係る防虫器具の正面図である。

【図2】図1の防虫器具への防虫剤の取り付けの説明図である。

【図3】図1の防虫器具の適用例を示す図である。

【図4】図1の防虫器具の変形例を示す図である。

【考案を実施するための形態】

【0011】

以下、本考案に係る実施形態を図面に基づいて説明する。

【0012】

図1に、一実施形態に係る防虫器具10の正面図を示す。また、図2に、防虫器具10への防虫剤Mの取り付けの説明図を示す。図3に、防虫器具10の適用例を示す。

20

【0013】

防虫器具10は、支持部材12と、支持部材12に防虫剤Mを保持する保持具14とを備える。保持具14は、支持部材12から延びる延出部16に取り付けられている。そして、防虫器具10は、保持具14周りを覆う傘部材18を備えている。

【0014】

支持部材12は、防虫器具10を支持する機能を有する部材である。ここでは、支持部材12は、棒状部材である。支持部材12は、植物の土壌への立設用であり、例えば植物が植木鉢又はプランターに植えられているときその植木鉢又はプランター内の土壌にその一端が挿される。例えば、支持部材12は、木材、合成樹脂又は金属などの材料又はそれを一部に含む材料で作製され得、ここでは木材の棒である。なお、支持部材12は、人間の手の力で塑性変形し難いものであっても、人間の手の力で簡単に塑性変形可能であってもよく、種々の材料で作られ得、また、種々の形状を有してもよい。支持部材12は植物を支える支柱（不図示）に結びつけられて用いられてもよく、圃場において畝に沿って設置されるワイヤー等の紐状部材に取り付けられるフック等であっても、その紐状部材そのものを含んでもよい。しかし、支持部材12は、保持具14に保持された防虫剤Mを空中に保つことができるように構成されているとよい。

30

【0015】

延出部16は、支持部材12から保持具14に延びる。ここでは、延出部16は、その一端が支持部材12につながり、その他端が保持具14につながる。延出部16は、可撓性を有し、かつ、塑性変形可能である。ここでは、延出部16は、所謂針金であり、外力によりしなやかに撓むことができ、また、塑性変形可能であるが、他の材料で作製されてもよい。

40

【0016】

保持具14は、詳細な図示は省略するが、ここでは所謂クリップであり、防虫剤Mが取り外し可能に取り付けられることができる。なお、保持具14は、クリップであることに限定されず、例えば皿、カゴなどであってもよく、使用状態において防虫剤Mを保持する機能を有する種々の構成を有することができる。

【0017】

傘部材18は、保持具14周りを覆うように構成されている。したがって、傘部材18

50

は、保持具 14 に防虫剤 M が保持されているとき、その防虫剤 M を実質的に覆うことができる。ここでは、傘部材 18 はコップ状部材であり、その一部に開口部 18A を有する。図 1 に示すように、傘部材 18 は、コップを逆さにしたように、つまり、開口部 18A が下側を向くように防虫器具 10 に取り付けられる。なお、「傘部材 18 が保持具 14 周囲を覆う」の「覆う」とは、保持具 14 又は防虫剤 M への直接的なアクセスを生じ難くすることに向けられているが、これに限定されず、例えば雨粒から保持具 14 又は防虫剤 M を保護することに向けられてもよい。または、傘部材 18 は、防虫剤 M の日除け、つまり、直射日光が当たらないように設けられてもよく、その場合、傘部材 18 の少なくとも一部又は全部は光透過性に劣る所謂不透明な材料、例えば紙又はアルミホイルで作製され得、あるいは、その内側又は外側に不透明な材料を少なくとも部分的に配して作製されてもよい。傘部材 18 は、防虫剤 M の特性に応じて選択された透明な材料又は不透明な材料で作製されるとよい。なお、傘部材 18 の少なくとも一部が光反射性の高い材料、例えばアルミホイルを有することで、その部分又は全体での光反射により、昆虫や鳥などへの忌避効果を高めるようにしてもよい。

10

20

30

40

50

【0018】

延出部 16 は、傘部材 18 の孔 18H を貫通して、傘部材 18 の外側から内側に延びる。したがって、図 1 及び図 2 に示すように、延出部 16 における傘部材 18 の位置を、延出部 16 の長手方向に沿って自由に変えることができる。例えば、延出部 16 の長手方向中間位置に傘部材 18 を位置づけることで、傘部材 18 から保持具 14 を離し、ここでは保持具 14 を露出させ、よって保持具 14 への防虫剤 M の取り付け又は保持具 14 からの防虫剤 M の取り外しを容易に行うことを可能にする（図 2 の矢印 A 参照）。

【0019】

防虫剤 M は、常温において固体又は液体であるとしてよく、それに応じた構成を保持具 14 は有し得る。防虫剤 M は、虫の忌避効果のある薬剤であればよく、種々の成分のものをを用いることができる。防虫剤 M は、特に限定されず、例えば、既存の防虫剤が用いられることができる。ここでは、防虫剤 M は常温で固体であり、空気中で固体から気体へ昇華するものであるとしてよい。例えば、防虫剤 M は、ナフタリン、パラジクロロベンゼン（パラジクロロベンゼン）、無臭性のピレスロイド系薬剤（エンペントリン）のいずれか 1 つ又は複数を含むことができる。具体的には、パラゾール（登録商標）を防虫剤 M として用いることができる。

【0020】

図 3 に示すように、防虫器具 10 は、植木鉢又はプランター 20 内の土壌 22 に立設される。このとき、支持部材 12 の一端 12a は土壌 22 に挿され、これにより防虫器具 10 が安定して支持されるようになる。支持部材 12 の他端 12b には、延出部 16 がつながれていて、土壌 22 の表面から離れた位置にある。延出部 16 は、可撓性を有し、かつ、塑性変形可能であり、ここでは針金で形成されているので、支持部材 12 からの延出状態を自由に変えることができる。図 3 では、植木鉢又はプランター 20 内の植物 24 から少し離れた位置に保持具 14 に保持された防虫剤 M が位置するところを実線で示し、植木鉢又はプランター 20 内の植物 24 により近い位置に保持具 14 に保持された防虫剤 M が位置するところを破線で示している。支持部材 12 から延出する延出部 16 の延出状態を変えることで、このように防虫剤 M の位置を変えることができる。

【0021】

図 3 に示すように、防虫器具 10 を用いて植物 24 の土壌 22 から離れた位置かつ植物 24 の近傍に防虫剤 M を配置することで、蝶などの昆虫が植物 24 に近づくことを防ぐ又は抑制することができる。よって、防虫器具 10 は、植物 24 又はその付近へのつまり植木鉢又はプランター 20 内への昆虫の飛来の防止又は抑制の効果を発揮することができ、よって、例えば植物 24 に昆虫が卵を産み付けることを防ぐ又は抑制することができる。これにより、昆虫の幼虫、例えば青虫により植物 24 が食い荒らされることを防ぐ又は抑制することが可能になる。

【0022】

なお、本開示は、防虫器具 10 を用いて防虫剤 M を土壌 22 の近く又は土壌 22 中に位置付けることを排除しない。しかし、好ましくは、防虫器具 10 を用いることで防虫剤 M は空中に配置されるとよい。

【 0 0 2 3 】

図 4 に示すように、傘部材 18 の外側を覆うように網状部材 26 が設けられるとよい。網状部材 26 は、例えば合成樹脂製ネットであり、子供又は農作業者などが防虫剤 M に意図せず触れることを更に防止する又は抑制することを可能にする。

【 0 0 2 4 】

以上、本考案に係る実施形態及びその変形例について説明したが、本考案はそれらに限定されない。本願の実用新案登録請求の範囲によって定義される本考案の精神及び範囲から逸脱しない限り、種々の置換、変更が可能である。

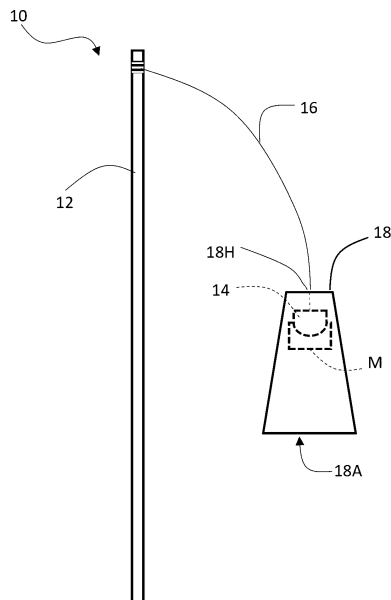
【符号の説明】

【 0 0 2 5 】

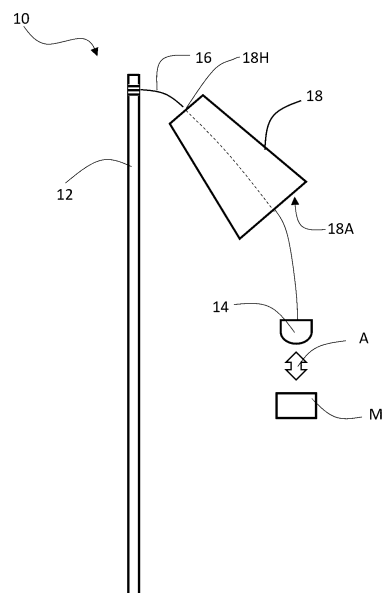
- 10 防虫器具
- 12 支持部材
- 14 保持具
- 16 延出部
- 18 傘部材
- 26 網状部材

【図面】

【図 1】



【図 2】



10

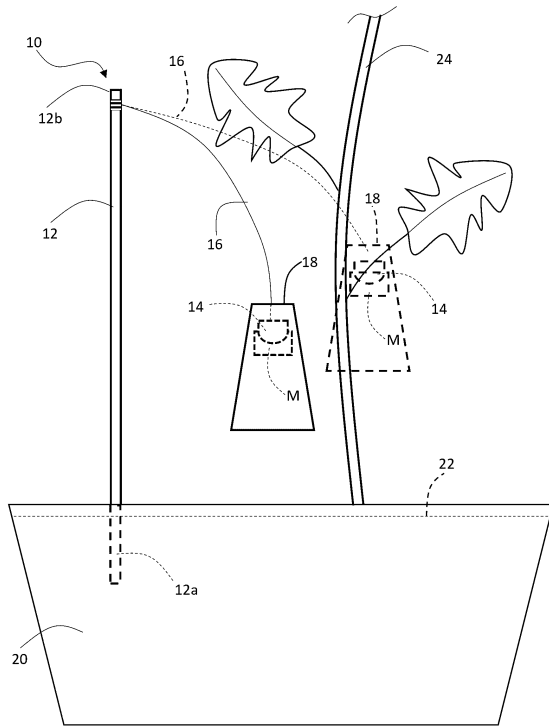
20

30

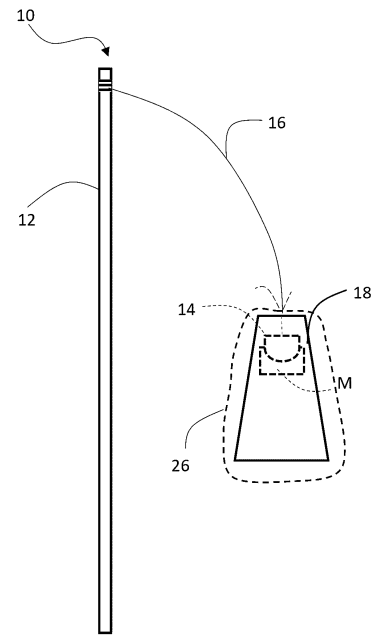
40

50

【図 3】



【図 4】



10

20

30

40

50